

活動終了報告書（要約）

採択年度	2020 年度
コード番号	20-S-027

団 体 名	特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	申請額
		1,000,000 円
		助成額(受領額)
		980,000 円
事 業 名	インド新型コロナウイルス緊急支援	事業地(国名)
		インド

組 織 及 び 事 業 概 要

■ 組織概要〈創立年、趣旨、主な活動等〉 * 300 字以内

1999 年に任意団体として設立され、2004 年に NPO 法人を取得。団体のミッションは次の 2 つ。

- ①「子どもには世界を変えられない」という考えから子どもを Free（自由）にする。
- ②国内外の貧困や差別から子どもを Free（自由）にする。

上記のミッションを達成するために日本にいる子どもが国内外の社会問題を「自分ゴト」として捉え、課題解決のためアクションを起こせるようチカラを育てるエンパワーメント活動や政策提言等に取り組んでいる。また、国内外の経済的に課題を抱えたり生きづらさを感じたりしている子どもへの質の良い教育支援を中心に子どもの家族の自立支援のため国際協力活動などに取り組んでいる。

■ 今回実施した活動の概要 * 400 字以内

インド西ベンガル州のマディヤグラム地区及びハロア地区の子育て世帯の生活困窮家庭 1018 世帯に対して、特に、政府からの支援を受けられていない家庭などを重点的な対象として、米、豆、マスタードオイル、卵、野菜などの食糧の他、石鹼やマスク（一部ハンカチ）などの生活物資の提供を行った。

物資配給と並行して家庭状況を調査し、ニーズの聞き取りを行うと同時に、医療支援が必要な場合には、貧困層への医療支援活動を行う別の民間組織に紹介するなどし、他組織と連携しながら事業を行った。また、貧困から子どもを働かせに手放したり、児童婚をさせたりしてしまう親を減らすためや、人身取引に関わらせないために、食料・生活物資配給支援のときに子どもの権利を伝える啓発及び注意喚起の活動を実施した。

■ 成果 * 400 字以内

- ・選挙により実施事業の短縮と、物資調達のための経費が計画時より上がったため目標としていた 1200 世帯よりは減少したものの、1018 家庭に食料など提供できた。
- ・2021 年も昨年に続き、コロナ感染が拡大し、貧困家庭にとって医療へのアクセスは大変厳しい状況となったが、家庭や地域訪問を通じて、情報提供を行うことで、人々と繋がることができた。
- ・子どもが危険にさらされずに生きていけるような啓発活動を 1018 家庭に行うことができた。
- ・今後の活動に活かすための声やニーズを聞くことができた。
- ・サイクロンやコロナで収入が激減したり失ったりした子どものいる家庭に食料支援を行うことで、生きていけることができたことと受益者からは感謝の言葉が届いた。

* 記載者へのお願い: 本概での記述は本紙一枚に収めるようにして下さい(全体で 1100 字以内程)。

会計報告書は別紙ご参照ください。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン事業報告書

組織名：認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

事業管轄	FTC プログラム インド支援事業	作成日	2021年 8月30日
事業名	インド新型コロナウイルス緊急支援 コード番号： 20-S-027		
作成者 連絡先	FTCJ 事務局 関西連絡所 担当：藤井裕子、中島早苗		

添付資料	1. 現地活動写真
	2.
	3.
ホームページ等	2021年9月中に掲載予定
	https://ftcj.org/archives/21552
【背景・目的】	
1 今回の事業の活動目的	
<p>インドの西ベンガル州ではコロナ感染拡大に伴う政府による移動制限や、2020年5月に州を襲った大型スーパーサイクロン「アンファン」によって、貧困家庭、特に日雇い労働者は完全に失業状態となり、彼らは家族全体で飢えに苦しんでいる。何とか生き延びるため、家事手伝いとして子どもを働きに出すケースもある。都市封鎖の期間中、特に、貧困農村地域では児童婚や少女の人身売買が横行していることが分かった。その後コロナ感染拡大が深刻化し、長らく人々は仕事もなく、その結果収入が減少し、家族は深刻な経済的困難に陥っている。</p> <p>このような貧困及び栄養不足の状況から子どもを救出するため、貧困家庭を対象に食料や生活物資の提供を行うことで、子どもとその家族が生きていけるように支援します。同時に保健衛生に関する情報や子どもを危険から守るための情報提供を行い、貧困家庭の子どもの健康が守られ、搾取や虐待、権利を奪われ不当な扱いをされないようにすることを目的としました。</p>	

【活動内容について】

2 今回の事業の活動内容と方法

インドの西ベンガル州の現地パートナーNGO とともに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、サイクロンの被害を受けた貧困家庭世帯に対し、食料及び生活物資配布支援の実施と、子どもの権利を守るための啓発活動を行いました。

【支援内容】

インド西ベンガル州のマディヤグラム地区及びハロア地区の子育て世帯の生活困窮家庭 1218 世帯に対して、特に、政府からの支援を受けていない家庭などを重点的な対象として、米、豆、マスタードオイル、卵、野菜などの食糧の他、石鹼やマスク（一部ハンカチ）などの生活物資の提供を行いました。

物資配給に先立ち、家庭状況を調査し、ニーズの聞き取りを行うと同時に、医療支援が必要な場合には、貧困層への医療支援活動を行う別の民間組織に紹介するなどし、他組織と連携しながら事業を行いました。

また、貧困から子どもを働かせるため手放したり、児童婚をさせたりしてしまう親を減らすため、また、子ども自身が犠牲にならないよう、人身取引に関わらせないための子どもの権利を伝える活動を食料・生活物資配給支援のときに啓発し、注意喚起しました。

【活動方法】

支援対象地域の貧困家庭への訪問を無作為に行い、状況把握とニーズ調査、医療に関する情報提供を行った。その際、口頭で食糧支援の実施日を伝え、食料提供の実施日時に集まってもらうようにした。支援物資の提供は1回につき約200家庭に集まってもらい、7回行った。

3 活動の実施経過

2021年1月～2月：1月中に500世帯に対して食料支援（3回）を実施した。また、2月以降の活動の計画や関係者で打ち合わせ会議を実施し、どこの地域から順番に訪問するかを関係者で決めて実施していった。また、保健衛生のための生活支援物資提供と、感染予防や感染に関する情報を提供した。

2021年2月28日～5月5日：西ベンガル州での選挙が決定されたため外での活動が禁止され、活動はせず待機した。

2021年5月10日～6月30日まで：518世帯（約2000人）の貧困家庭に対し、食料及び生活物資提供支援を4回に分けて行った。

【実施事業の成果】

4 活動の成果

- ・1018 家庭に食料や衛生生活物資などの提供ができた。
- ・2021 年も昨年に続き、コロナ感染が拡大し、貧困家庭にとって医療へのアクセスは大変厳しい状況となったが、家庭や地域訪問を通じて、情報提供を行うことで、人々と繋がることができた。
- ・子どもが危険にさらされずに生きていけるような啓発活動を 1018 家庭に行うことができた。
- ・今後の活動に活かすための声やニーズを聞くことができた。

【課題点】

5 今後の課題

・コロナ禍が続き、貧困家庭では、仕事を通常通りにできる状況ではない家庭が多いため、引き続き収入を得ることは厳しいことが予想されます。今後も継続して、食料及び生活物資の提供を行う必要性を切実に感じるため、資金調達を行って実施していく予定。また、ストレスから子どもや女性への暴力、子どもを働かせざるを得ない状況に陥っている家庭もあることから、家庭と繋がっていく必要性を感じています。

インド新型コロナウイルス緊急支援の様子



庭野平和財団助成による活動写真
NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン作成



庭野平和財団助成による活動写真
NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン作成



庭野平和財団助成による活動写真
NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン作成

